

くしろ



釧路の肉牛

釧路管内では、3,951頭の和牛繁殖雌牛が飼養されています（H28年度末現在 酪農畜産協会資料より）。発育向上の取り組みが進むなか、今年度は管内から初めて全国和牛能力共進会北海道選抜会へ出場しました。初出場ながら道内2位の評価をいただき、釧路の和牛づくりへ大きな一歩となりました（右下：摩周和牛生産改良組合 鴨志田敬郷氏とはるか号）。

	所在地	電話・FAX	Eメールアドレス
釧路農業改良普及センター本所	〒088-2313 川上郡標茶町常盤8丁目5番地	Tel:015-485-2514 Fax:015-485-2249	kusirokita-nokai.11 @pref.hokkaido.lg.jp
釧路東部支所	〒088-1365 厚岸郡浜中町茶内橋北東31番地	Tel:0153-65-2021 Fax:0153-65-2037	kushiroto-nokai.11 @pref.hokkaido.lg.jp
釧路中西部支所	〒084-0917 釧路市大楽毛127番地	Tel:0154-57-8306 Fax:0154-57-4702	kushirochu-nokai.11 @pref.hokkaido.lg.jp

ホームページアドレス：<http://www.kushiro.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

重点活動の紹介（中西部支所）

チーズづくり研修会を開催

平成29年11月8日、中久著呂コミュニティセンターにて、「チーズづくり研修会」を開催しました。

参加者は、鶴居村重点地区の女性農業者5名とそのお子さんたちでした。

上川農業試験場技術普及室の木村恵主任普及指導員を講師に招き、午前中は自分の農場で搾った生乳を使って、ストリングチーズの製造過程を学びました。昼食後、チーズ製造の合間に6次産業化についての勉強会が開催



自分の農場で搾った生乳でチーズづくり



牛乳や6次産業化について勉強会

され、「牛乳パックの表示の見方」や「牛乳を使ったレシピ」など牛乳の基礎知識についても学びました。

参加者の方々は、熱心にストリングチーズづくりを行っていましたが、チーズが伸びなかったため、型につめてゴーダ風のチーズに切り替えました。

今後、チーズが伸びなかった原因を究明し、次回は、本来の目的であったストリングチーズづくりを企画しています。

地域の話（本所）

標茶町農学ゼミナール 十勝での視察

標茶町青年農業者「農学ゼミナール」では毎年秋に移動学習を計画し、1泊2日で十勝管内の牧場視察を行っています。

平成29年は10月25日～27日と11月8日～10日の2回に分けて行いました。

1回目は清流ファーム・棚田牧場（清水町）、しんむら牧場（上士幌町）を、2回目はオーシャンリンク（大樹町）、ノベルズデリーファーム（清水町）、浦幌模範牧場を訪問しました。



浦幌模範牧場 放牧地を掘って説明してくれました



棚田牧場 どんな質問にも答えてくれました

ゼミ生からは「初めてロータリーパーラーを見て興味深かった（オーシャンリンク、デリーファーム）」、「栄養管理について丁寧に説明してもらえた（棚田牧場）」、「堆肥について教えてもらえて良かった（浦幌模範牧場）」、「研究熱心な人たちに刺激を受けた」、「これからの経営に役立てていきたい」などといった声が聞かれました。

移動中の車内や、懇親会での交流も盛り上がり、有意義な移動学習となりました。

管内の話題

ファームキッチン講座で高付加価値化を学ぶ

10月31日、「地場産農畜産物活用研修ファームキッチン講座」を根室市の明郷☆伊藤牧場で開催しました。講座は他地域の先進的な事例から、取組可能な付加価値活動について研鑽することを目的に行っています。

研修は伊藤代表取締役より農場レストランと乳加工の取組経過や、地域と連携した活動を講演いただきました。ひとつひとつを積み重ねて今の付加価値活動があること、フットパスに取り組み考えのびれない仲間の存在が



地域資源を活かす付加価値活動の講話



乳加工施設を視察

おおきいことなどが話され、参加者の質問に多くのアドバイスをいただきました。「経営に対する考えが聞けてよかった」「仲間、周囲の方々の重要さが分かった」などの声が聞かれ、参加者はそれぞれの目指す付加価値活動へのヒントが得られました。

普及センターでは、地域資源を活かした付加価値づくりに向けて、農業者のみなさんのステップアップにつながる活動支援を行っています。

管内の話題

女性後継者グループが会員牧場で交流

「ミルねえさんず」では、6月の交流会の中で挙がった「会が発足して10年経つけどお互いの家に行ったことないね」という意見から、11月に釧路市阿寒町で初めて会員牧場の視察を開催し11名が参加しました。

案内した金子睦さんの農場はTMRセンター利用により省力化を図る一方、乳質・繁殖・育成管理改善に努め、23年に全国青年農業者会議で農林水産大臣賞を受賞しています。

「家に閉じこもって世間知らずになりたく



哺乳瓶の衛生管理方法を情報交換



女性後継者ならではの悩みを楽しく共有

ない」と5年以上FM番組に出演したり、青年・女性活動など多彩に活動するモチベーションの高さに参加者は感嘆していました。

交流会では「経営を守り自分の子供に受け継いでいきたい」と後継者としての使命感や、娘の幸せを願う心温まる父の話で盛り上がりました。管内にはまだ参加していない女性後継者がいます。ご家庭でも「行ってみたら」と送り出していただけたいと思います。

浜中町の石橋牧場では、冬期間を除いて乾乳牛を分娩まで放牧地で管理しています。石橋さんに放牧地での乾乳牛を管理するに当たり、留意されていることをお聞きしました。

ポイント① 「1日3回の牛の観察」

牛のわずかな変化を見逃さないために、朝・昼・夕に放牧地に赴き、牛を観察しています。

ここを工夫

朝の観察は、TMRの残飼やグラスサイレージをゲート付近に置き、牛を呼び寄せます。こうすることで、普段と行動が違う牛のチェックしています。



①サイレージを持って行き



②牛を呼び寄せ



③行動をチェック

「採食中に乳房も触らせてくれるので、乳房炎の発見もできる。」



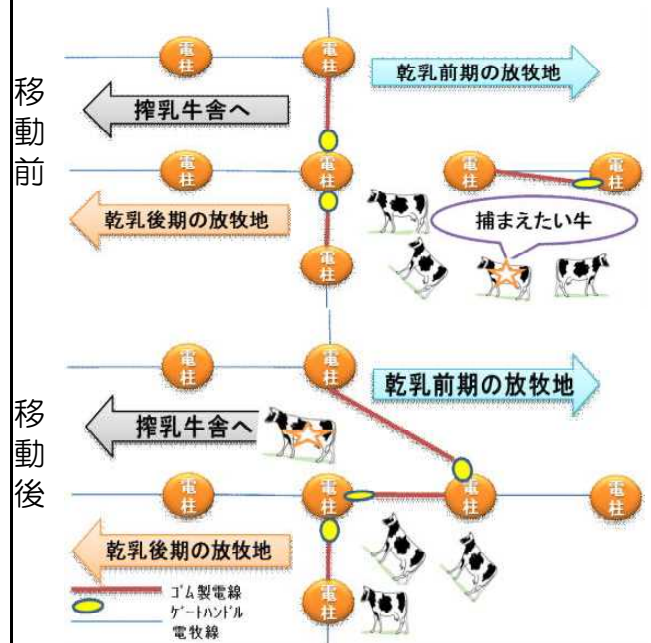
ポイント② 「牛の移動を容易に」

「牛の移動を容易に」

分娩が近い牛は、目の届きやすい搾乳牛舎近くの放牧地へ移動させます。また、治療等で捕まいたい牛は、連動スタンションがある搾乳牛舎に移動させます。

ご夫婦2名でも移動できるように、ゲートを工夫しています。

ここを工夫



ポイント③ 「草を腹一杯食べさせる。」

「草を腹一杯食べさせる。」

ラップサイレージを複数置き、牛が、放牧草とサイレージの好きな方を選べるようにしています。

＜ラップサイレージの給与＞

- ・ 4～7月は放牧草の状況を見て給与
- ・ 8月以降は常時給与



- ①連スタのある搾乳牛舎への通路を整備
- ②ゲートは伸縮性ロープにし、牛の動きに応じて張る電柱を変える。

